

NIE  
実践校から  
〈6〉

関西の未来を討論

「カジノは要る？ 要らない？」「大阪の観光をどうする？」一。社会に山積する諸課題について、大阪や兵庫の中学生らが討論する「第12回 社会討論」が今年7月、大阪市立咲くやこの花中学校（大阪市此花区）で開催された。テーマは「関西の未来！ ～大阪万博・カジノ・リニアなど～」。参加した計12校189人が、学校ごとに取り上げ、考察した内容について討論を繰り広げた。

4年前に大阪府の島本町立第一中学校の飯島知明教諭らが中心となって立ち上げた。政治や社会問題、社会現象などについて生徒らに幅広く深い関心を持たせ、疑問点を抽出したり議論する場となっており、これまでに参加した学校は29校に上っている。今春に文科省が示した新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を実践する



壇上が上がって意見発表をする  
参加校の中学生 7月、大阪市  
此花区の咲くやこの花中学校

## カジノや万博、中学生の視点で

取り組みで、年々参加校が増加している。

今回は、まず咲くやこの花中社会科部が「観光・産業・伝統文化から考える大阪の未来」と題して発表。大阪の多様性を生かすため、国籍取得要件の緩和などを訴えた。神戸大付属中等教育学校は、カジノを含む統合型リゾート（IR）について、アト

ラクションの充実やカジノの賭け金制限を訴える賛成意見や、マネーロンダリングの温床になるなどとした反対意見を並べて会場に是非を問いかけた。さらに各校への質疑応答の後、各校数人ずつが複数のグループを作り、カジノや万博の誘致、中小企業のありかたなど発表の内容を掘り下げる討論を繰り広げた。